始まった 秋季年末 闘争

官公労ILO条約批准へ

秋季年末闘争は、各単産ともつぎつぎと闘争態勢を確立、すでに化学関係では要求書を提出闘いに入つている。ことしは秋季年末闘争にくわえて「警職法改悪」反対闘争もすすめられることとなり、激しい闘いになることが予想されている。以下各単産の態勢をみよう。

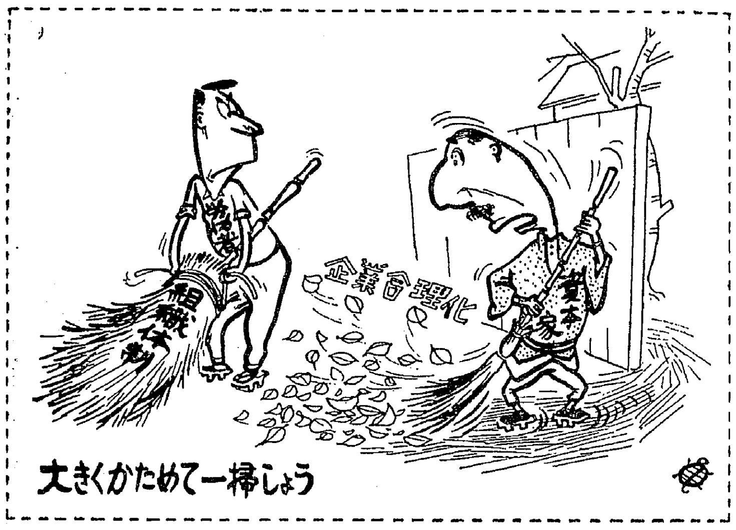
全印総連 現在勤務評定関係文書の印刷を一切拒否する闘争をつづけているが、秋から春にかけては最低初任給協定、年末闘争、一律プラス修正給の賃上げ、小薬、共同印刷に集中してあらわれている首切り、工場閉鎖に対し権利擁護の闘いを組んでいく。

全造船 期末手当、賃上げ労働協約闘争の三本を柱にして秋から春にかけて闘う方針をきめた。期末手当については早期解決を目標に十月十、十一日の全国代表者、給対部長会議で要求、闘い方をきめ、賃上げは次回の臨時中央委員会で細目をきめることになつている。なお現在中小、大手の一部に臨時工、下請工に首切りが出されているが、整理に対し各分会本工組合を中心に反対闘争を組んでいる。

鉄鋼労連 労働協約、日中関係打開、期末手当、賃上げ闘争、退職金闘争を主な要求として来春にかけて闘うが、賃金退職金闘争については十一月中旬賃金専門委員会、政策委員会をひらいて要求原案をまとめ年内に要求を提出する。一月下旬に臨時大会をひらきスト権を確立する。

全鉱 けい肺協定の改正、期末手当、来春の賃上げの三要求を主な柱としてそれに企業整備反対闘争をあわせ秋から春にかけて闘うことをきめている。けい肺協定改正闘争では十月十日に統一闘争を行い、期末手当は三〇・〇〇〇円の要求を十月下旬までに提出する。賃上げは坑外鉱員八・〇〇〇円の増額、一月初旬に要求書提出、二月中旬に実力行使を含む本格闘争に入る。なお石炭産業にだされた企業整備に対し、現地に対策委員会をもうけ合化労連と共同闘争を組む方針をだしている。

官公労組 全逓労組は不当処分撤回、ILO条約の批准をかかげて十月には時間内（三十分—三時間）の職場大会を計画し、機関車労組も同じ不当処分撤回、ILO条約批准、ダイヤ改正による増員獲得を目標として闘争を組んでいる。国鉄労組は一〇〇%昇給の獲得、志免鉱業所払下げ反対、特日勤務の廃止と週四十二時間の獲得を闘いの目標にしている。全専売は不当処分の撤回、機械化による労働強化と人員削減にたいする闘い、勤務時間の短縮を主要目標に闘う。官公労組ではそれらの目標のほかに期末手当二カ月分を要求することときめている。


労働者
組織体制
企業合理化
資本家
大きくかためて一掃しょう

政治中闘候補決る

全員当選へ結集しよう

来年は参議院議員をはじめ地方首長、地方議員の改選が四、五月に一齊に施行される。組合運動と政治活動は密接なものであることはこれまでの闘争で経験した幾多の事例で痛感することができる。岸内閣や独占資本と対決するため全組合員の総意を結集して政治中闘を送るため、去る九月末、政治局員候補を組合員の直接無記名投票で次の通り決めた。今後一日々々が組織力を結集し、全員当選を期すべく候補者はもちろん全組合員が努力してこそ、労働者解放の狼火はあげられる。今回の候補者は参議一、県議二、市議二十（大牟田九、荒尾十一）町議二の計二十五名である。前回は市議全員当選という輝かしい成果をおさめた、今回もこの成果はかちとらねばならない。

全国参議

阿具根 登	宮浦	現参議

福岡県

蒲川 守	本所	現県議

熊本県

酒井 磐為	三川	現県議

大牟田市

蓮尾信次郎	宮浦	現市議
小宮 生計	〃	〃
野方 重男	〃	元執行委員
松本 勇	四山	現市議
広沢 修功	三川	〃
月足 康則	〃	〃
中川 末義	本所	〃
辻 辰美	港務	現執行委員
石橋 進	製作	現市議

荒尾市

牛島 元義	四山	
浦浜 真光	〃	現市議
前川 高之	〃	元執行委員
坂本 敏雄	三川	〃
小森 隆一	〃	現市議
橋本 英信	〃	
田中 常夫	〃	
益田 武利	〃	現市議
川野 利丸	〃	元執行委員
福川 次郎	本所	現市議
藤木 幸博	港務	元執行委員

高田町

中川原末松	本所	元執行委員
塚本 宗雄	製作	元高田村議

ときの焦点

警察官職務執行法 改悪を粉砕しよう

政府は「警察官職務執行法」を改悪し、警察の職権を大幅に強化しようとしている。

これは、砂川の基地反対闘争や最近の勤評反対闘争、王子製紙闘争などに加えた不当な弾圧警察の手による数々の不法逮捕暴行などのすべてが合法化され戦前の警察国家再現の危険性がきわめてつよい。

この悪法によつて、警察ファツショ化の総仕上げをねらつているもので、日米安保条約改悪や、労働組合弾圧にそなえた露骨な、民主々義じゆうりんの悪法である。

この「警察官職務執行法」改悪の背景は、戦争屋アメリカと手をむすんだ岸政府が、安保条約改訂で日米軍事協力体制をつよめ、日本の核武装化をおしすすめて、帝国主義と軍国主義の復活と前進のため、国民の権利をうばいとり、抵抗をおさえつけて反動体制の仕上げをしようとしているものであり、勤評、道徳教育実施、組合の分裂策動弾圧などと関連した一連の兇悪な計画のあらわれである。

また、経済不況のしわよせを労働者におしつけるための、賃下げ、合理化、首切りなどの攻撃をすすめるため、警察の暴力で組合の弾圧を強めようとしている。

さらに、来年の参議員選挙、地方選挙で革新勢力の進出をおさえるため、革新政党、労働組合、大衆団体の活動の制限をねらつていることなどがあげられる。

総評は、社会党と連繋をとりすべての労働者、国民の力を結集して大規模な悪法粉砕闘争に立ち上つた。

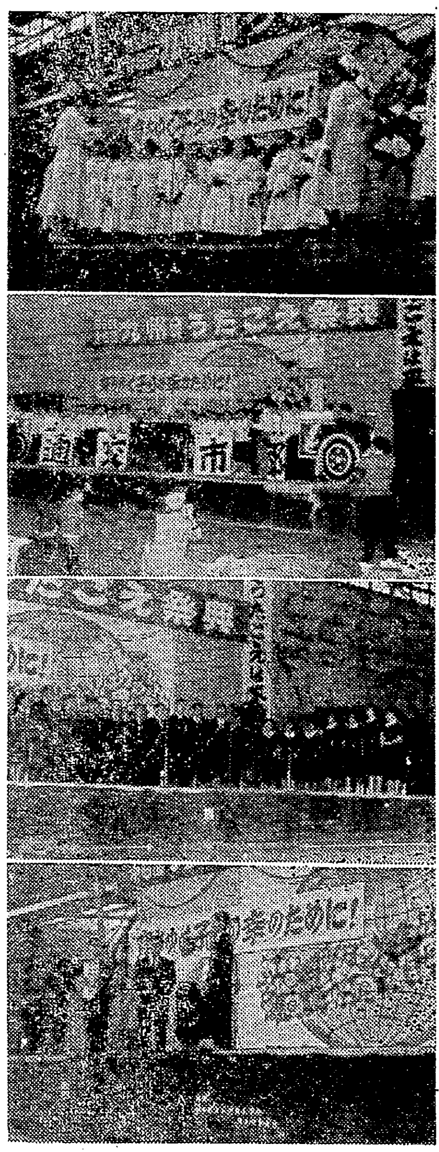
闘わないところに明るい未来はない。総力をあげて悪法を粉砕しよう。

第 6 回

九州のうたごえ

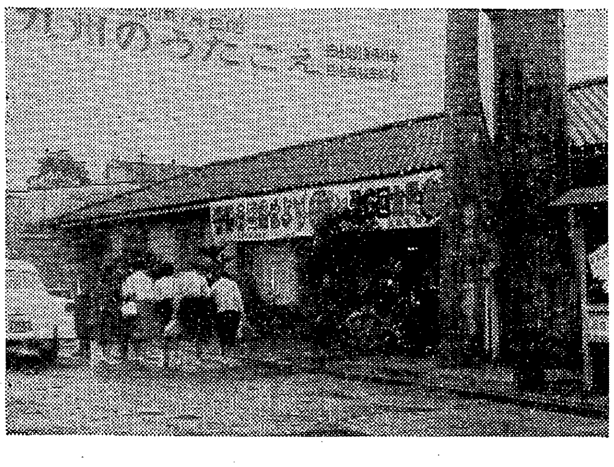
××××××××××××××××

写 真 特 集



(1)看護婦衣でうたう全医療の婦人たち (2)人形を操り、愉快にうたう都市交通の仲間 (3)私鉄の仲間も負けずに歌いまくる (4)中央合唱団からもかけつけて楽しいうたをうたつてくれた。

遠く沖縄からも三名（内女二名）がはるばるかけつけ、会場の激励をうけた。



祝九州のうたごえ、と組合本部は飾られ炭労の仲間たちが集つた。

荒尾中の生徒たちは千羽鶴を携えて参加した。

朝鮮の仲間たちは正装して出場、学生もブラスバンドを披露して会場から大拍手をうけた。

三池主婦会も大量参加、白のブラウス紺のスカートの揃いでうたつた。